

## 三河市民セミナー「幡豆の海と人々」開催報告

2014年2月22日（土曜）に、東海大学海洋学部及び総合地球環境学研究所「エリアケイパビリティプロジェクト」主催（後援：西尾市、西尾市教育委員会、東幡豆漁業協同組合）の三河湾市民セミナー「幡豆の海と人々」が、西尾市幡豆いきいきセンターつつじホールにて開催されました。地元住民、漁業者、行政、学生など計55名が参加し、活発な議論が展開されました。

まずは、東幡豆漁業協同組合の石川金男組合長から開会挨拶、総合地球環境学研究所「エリアケイパビリティプロジェクト」リーダーの石川智士准教授から趣旨説明がありました。

第1部の「環境と生物」では、海洋学部環境社会学科の仁木将人准教授が「波・流れと漂砂」について、海洋学部水産学科の吉川尚准教授が「干潟の食物網」について、海洋学部海洋生物学科の野原健司講師が「貝類の遺伝多様性」についてそれぞれ講演が行われました。

第2部の「海と人々」では、海洋学部環境社会学科の李銀姫講師が「海洋教育と漁協・教育委員会」について、海洋学部環境社会学科の仁木将人准教授が「大学教育と地域連携」について、東幡豆漁業協同組合の石川金男組合長が「これからの漁業・漁協」について講演があり、熱心な質疑応答が行われました。

また、ポスターセッションでは、水産学科や海洋生物学科、環境社会学科の学生たちが幡豆の海で行ってきた研究や調査データ等の成果が発表され、地元の方たちとの積極的なコミュニケーションの場が繰り広げられました。



★本セミナーの様子は、三河新報、愛三時報等の地元紙に掲載されました（添付資料参照）。

東海大学海洋学部&総合地球環境学研究所エリアケイパビリティプロジェクト主催

## 三河湾市民セミナー「幡豆の海と人々」

日 時：2014年2月22日（土）13:00～16:30

場 所：西尾市幡豆いきいきセンターつつじホール

後 援：西尾市，西尾市教育委員会，東幡豆漁協

### プログラム

13:00—13:05 開会の辞 石川金男（東幡豆漁協）

13:05—13:15 趣旨説明 石川智士（地球研）

第一部 環境と生物 座長 松浦弘行（東海大）

13:15—13:40 波・流れと漂砂 仁木将人（東海大）

13:40—14:05 干潟の食物網 吉川 尚（東海大）

14:05—14:40 貝類の遺伝多様性 野原健司（東海大）

ポスターセッション

14:40-15:10

第二部 海と人々 座長 石川智士（地球研）

15:10—15:35 海洋教育と漁協・教育委員会 李銀姫（東海大）

15:35—16:00 大学教育と地域連携 仁木将人（東海大）

16:00—16:25 これからの漁業・漁協 石川金男（東幡豆漁協）

16:25—16:30 閉会の辞 仁木将人（東海大）

## 石川東幡豆漁協組合長らが登壇 環境や生物に着目 三河湾市民セミナー

三河湾市民セミナー「幡豆の海と人々」は22日、西尾市西幡豆町の幡豆いきいきセンターで開かれた。東海大学海洋学部が総合地球環境学研究所エリアケ

イパビリティブロジェクトと協力して開いたセミナーで、この日は三河湾の西尾市沿岸を対象に海洋生物や環境教育について調査した研究成果を発表。市民ら約100人が受講した。

第一部は「環境と生物」をテーマに、波・流れと漂砂、貝類の遺伝多様性などについて解説があった。干潟の食物網では、東幡豆干潟にいる植物プランクトンやアマモなど主な植物を挙げ、低動物のマテガイなどの貝類やゴカイなどの多毛類がいることを解説した  
|| 写真。

このあと「海と人々」をテーマにした第2部では、これからの漁業・漁協、海洋環境教育と漁協・教育委員会、大学教育と地域連携について講話があり、石川金男東幡豆漁協組合長らが登壇した。



# テーマ「幡豆の海と人々」

## 三河湾市民セミナー で研究成果報告



研究成果を三河湾市民セミナーで発表

東海大学海洋学部など主催の三河湾市民セミナー「幡豆の海と人々」が二十二日、西尾市西幡豆町の幡豆いきいきセンターで開かれた。同学部が観察・調査などしてきた三河湾の西尾市沿岸での海洋生物や環境教育などに関する研究成果を同大学の准教授や講師ら五人が発表した。総合地球環境学研究所

に所属し、同大学の石川智士准助教授が趣旨説明をした後、「環境と生物」では波・流れと漂砂・干潟の食物網、「貝殻の遺伝多様性」について、「海と人々」では「海洋教育と漁協・教育委員会」「大それた漁業・漁協」について発表した。発表では、湾内に流入する豊川と矢作川の両河川による東幡豆干潟への堆積物の起源考察や、前島トンボロ干潟に生息する二枚貝類の遺伝的特性、海洋教育において有意義となる漁協の機能などを報告。発表者の一人、地元東幡豆漁協の石川金男組合長は「山

川がすっかり水の循環を行えば海はしっかりと受け止める」「特に夏場は貧酸素水塊となり、三河湾は非常に悪い状態となる。貧酸素水塊の原因の一つに干潟が少ないこと」などと語った。